

植物学者郡場寛博士の履歴¹⁾

山内 智²⁾

On the Record of a Botanist Dr.Kwan Koriba

Satoshi YAMAUCHI

Key words : 郡場寛, 植物生理学, 京都帝国大学

1. はじめに

植物生理学の先駆者である郡場寛博士(1882-1957)は、青森市出身で植物学分野のみならず、教育・文化に数多くの業績を残している。郡場家の祖先は、もともと尾崎村新屋(現:平川市大字新屋)で、新屋地区の原野を開墾し水田にする事業に全力を挙げて従事していた。助四郎堰、助四郎川など、現存する堰や川にその名前が残っている。その後、慶長14年(1609)津軽藩に召し抱えられ藩士となった家系である(尾崎村文化研究同志会, 1956)。明治3年に現在の弘前市から青森市に移住した(松村, 1988)ため、津軽地方の家系ではありながら、郡場寛は幼年期を青森市で過ごすことになった(表1)。この後の郡場寛の経歴や人柄、語録等については、郡場寛先生遺稿集(同刊行会, 1985)、生物学閑話第I-IV集(木原均, 1962,1966,1968,1970)や学会誌等で明らかである。特に京都大学芦田譲治(1943)は略歴を、弘前大学中沢潤(1953)は誕生から古稀までをそれぞれ詳しく解説している。

郡場寛他界後にその遺品は、京都の自宅に長く保管されていたが、平成14年ご子息により青森県立郷土館にすべてが寄附された。この中には図書等をはじめとする貴重な資料が数多くあり、100点以上に及ぶ辞令等(表2)が含まれている。郡場寛の経歴については前出の刊行物等にまとめられているが、これに今回発見の辞令等に基づく新事実を追加してまとめたので報告する。

なお、本文中では引用文献は丸カッコ(), 表2の辞令番号は角カッコ【 】に明示し、氏名の敬称は省略した。

貴重な資料を一括して青森県立郷土館にご寄附くださり、ご助言までいただいた郡場は行氏、郡場央基氏、資料寄附にご尽力いただきご指導いただいた元弘前大学千葉滋男氏、家系に関する文献についてご助言いただいた元東洋大学大野正男氏並びに関係各位に心から感謝する。

2. 勤務大学等

郡場寛が勤務した大学は、明治42年東京帝国大学理科大学副手(図2)【1,7】、大正2年東北帝国大学農科



図1. 郡場寛博士(1957年9月26日, 岩木山(青森県)山麓黒坊沼周辺, 千葉滋男氏撮影: この写真は現在、シンガポール植物園管理棟に、歴代園長の一人として掲げられている)

大学講師【6,9,11】、大正4年同教授【12,13】、大正9年京都帝国大学教授【27,28,29】、昭和29年弘前大学の4大学である。特に京都帝国大学では昭和16年理学部長、弘前大学では第二代目学長の要職に就任している。この他に非常勤講師としては、昭和2年鳥取高等農業学校【49】、昭和7年九州帝国大学【64】、終戦後、昭和24・26年立命館大学【109,114】、昭和25年大谷大学【111】、同年島根県立農林専門学校【113】、昭和27年京都大学分校など多数におよんでいる(表1,2)。

この間に郡場寛から指導を受けた方は多く、東北帝国大学農科大学(札幌)で植物生理学専攻で指導を受けた木原均(国立遺伝学研究所長)、京都帝国大学ではメタセコイヤの研究で著名な三木茂(大阪市立大学)など多くの研究者がいる。今回発見された辞令等の中に京都帝国大学「大学院生指導通知」が数点含まれている。高橋健治(昭和7年, 樹林限界)【63】、藤田哲夫(昭和8年, 植物形態学)【67】、小野田直之(昭和8年, 植物生理学)【68】、濱田稔(昭和9年, 植物生理学)【70】、

1) 郡場寛博士コレクションに関する調査研究(1)、青森県の自然誌に関する調査研究(16)

2) 青森県立郷土館 副参事 (〒030-0802 青森市本町2丁目8-14)

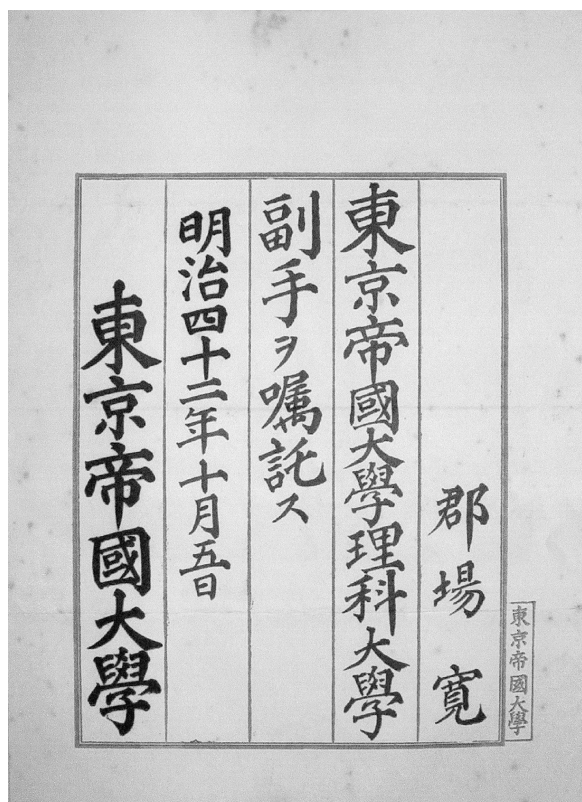


図2. 東京帝国大学理科大学副手辞令（明治42年）

久世源太郎（昭和12年，植物微細気象）【74】の方々の指導教授に命じられている。この中の濱田稔の一連のツチアケビの菌根に関する研究の抄録（Kohriba, 1940），藤田哲夫の一連の葉序の研究の抄録（郡場，1942）を学会誌に郡場寛が投稿し，末文にこの研究が生物学に貢献しているところが大きいと賞賛している。教育者郡場寛の教え子に対する暖かなまなざしが感じられる。

京都帝国大学では植物生理生態学と植物外部形態学の講義を行っていた。当時受講していた一人弘前大学中沢潤（1953）によると『名講義として学生間に評判が高かったが，中でも生理生態学の講義には農学部の学生も多数出席して大講義室はいつも溢れるばかりの盛況であった。・・・先生の廣く且つ深い学識と高潔な人柄は私たち学生の尊敬の的』と当時を振り返っている。いかに学生に信望が厚かったかが伺える。

3. 委員等

大学の委員等も数多く歴任している。大正6年には東北帝国大学農科大学教授理学博士の肩書きで「京都帝国大学理科大学生物学教室開設設計顧問」を委託【21】されている。大正9年8月20日の顧問を解任時の辞令【26】には理科大学は理学部と名称が変更されていて，解任と同時に京都帝国大学教授の辞令が内閣総理大臣から発令【27,28,29】されている。翌年には京都帝国大学農学部創設委員【32】も委託され，同大学の理学部，農学部両学部の創設に大きな役割を果たしている。その他，同大学で大正11年評議員【37】，昭和14年図書館商議委員会

【86】，昭和15年理学部入学学力検定試験委員【87】，昭和16年理学部長，同年報国際委員【101】等も歴任している。また，同大学医学部に併設されていた興亜民族生活科学研究所協議員・所員【84,85】も委嘱され，更に同大学学生会遠足部長【42】まで歴任していた。郡場寛は植物園の設計も行っており，大正12年に開園した同大学の植物園もその一つである。学内では多くの要職に付きながら幅広く活躍されていたことが伺われる。

学外でも数多くの要職についている。大正9年に官立の研究連絡機関としての学術研究会議が設立されたが，大正13年に内閣から学術研究会議会員の辞令を受け，昭和16年まで主要メンバーとして参加し【40,94,95】，各種国際会議に代表として参加した【58】。学術研究会議は終戦後廃止され，昭和24年日本学術会議が設立された。この他，大正13年9月第三回汎太平洋学術会議準備委員【44】になり，大正15年10月30日～11月11日にこの会議が東京で開催された。この会議は日本で初めての大規模な国際学術会議であり，郡場寛はこの開催に尽力した。昭和13年紀元二千六百年記念日本万国博覧会顧問【76】，内閣の教員検定委員会臨時委員【60,61,71,73,75,78,90】，京都府の要請により大正10年大典記念京都植物園長【36,56】にも就任した。これら公職の他に，京都園芸倶楽部にも籍を置き学芸部委員【50】，評議員【97】なども努め，多くの園芸家との交流も頻繁に行われた。

4. 国外勤務・調査等

郡場寛の最初の国外での活動は，大正7年3月21日横浜港から出国し米・英・仏・伊・瑞に東北帝国大学農科大学教授理学博士の職名で文部省特派留学生【23,24】として2ヶ年学んだ。大正9年8月8日帰国後の8月20日には京都帝国大学教授を拜命している【27,28,29】。その後，大正10年にはミクロネシア諸島ボナベ島【35】，昭和4年にはインドネシア・ジャバ島【55】，昭和6年欧米を視察し，途中，万国学術研究会議総会，万国生物学協会総会に学術研究会議の代表として出席している【58】。昭和15年には満州国・家蒙古・中華民国視察【88,89】。昭和17年の定年後には昭南特別市（シンガポール）に陸軍司政長官【107】として赴任し，昭南植物園長，昭南博物館長を歴任した。

5. 教育者・研究者として

郡場寛が弘前大学学長に赴任してからの詳しい経歴は「生物学閑話第IV集」（木原均ら，1970）に詳しい。それによると青森県内の岩木山麓（1954.7.1；1957.9.26），弘前市座頭石（1956.6.20）等の調査や採集会にも積極的に参加し，また，津軽地区の高校生・大学生が中心となって組織した「みちのく学生生物同好会」主催の講演会等にも参加し，後進指導にも意欲的に取り組んでいたことが伺われる。特に，青森県博物学の先駆者である和田千蔵（1976）によると，昭和29年6月27日，みちのく学生

表1. 郡場寛博士経歴

年 月 日	年齢	項 目	資料番号
明治15年(1882) 9月 6日		青森市栄町40番地(現在の同市栄町一丁目)に生まれる	*
明治20年(1887)	5歳	造道小学校(青森市)入学	*
明治22年(1889)	7歳	萁町小学校転校(青森市, 夏), 荒川小学校転校(青森市, 秋)	*
明治23年(1890) 5月	8歳	荒川小学校(青森市)卒業, 青森県師範学校附属小学校転入	*
明治28年(1895)	13歳	青森県師範学校付属小学校卒業	*
		青森県第一尋常中学校(弘前市)入学	*
明治33年(1900) 3月	18歳	青森県第一中学校卒業	*
	9月	第二高等学校二部理科(仙台市)入学	*
明治36年(1903) 7月	21歳	第二高等学校(仙台市)卒業	*
	9月	東京帝国大学理科大学植物学科入学	*
明治40年(1907) 7月	25歳	東京帝国大学理科大学卒業、	*
	?月	東京帝国大学大学院入学	*
明治42年(1909) 10月5日	27歳	東京帝国大学理科大学副手(～大正2年11月30日)	1, 7, *
	11月6日	特選給費学生	2, *
大正元年(1912) 8月	30歳	川口さかえ嬢と結婚	*
	12月10日	理学博士授与(ネジレバナの研究)	5, *
大正2年(1913) 11月21日	31歳	東北帝国大学農科大学講師(植物学第二講座)(～大正4年8月9日)	6, 9, 11, *
大正4年(1915) 8月 9日	33歳	任東北帝国大学農科大学教授, 叙高等官六等(植物学第二講座)	12, 13, *
	9月10日	叙正七位	15, *
	11月10日	授大禮記念章	*
大正6年(1917) 9月24日	35歳	歸省許可	18
	10月11日	除服出仕	19
	12月27日	東北帝国大学農科大学植物学第二講座擔任を免す	20
	12月28日	京都帝国大学理科大学生物学科教室開設設計顧問(～大正9年8月20日)	21, 26, *
大正7年(1918) 2月 1日	36歳	文部省特派留学生(米・英・仏・伊・瑞へ留学)	23, 24, *
		出国(3/21, 横浜港出)	*
大正9年(1920) 8月 8日	38歳	帰国(神戸港着)	*
	8月20日	任京都帝国大学教授, 叙高等官五等(理学部, 植物学講座)	27, 28, 29, *
	9月10日	叙従六位	31, *
大正10年(1921) 1月15日	39歳	京都帝国大学農学部創設委員	32, *
	4月13日	京都帝国大学理学部植物学講座擔任を免す. 植物学第一講座擔任	33
	8月 2日	西太平洋ミクロネシア諸島ボナベ島視察, 出国(8/11, 門司港出)	35, *
	8月18日	大典記念京都植物園長(～昭和4年10月19日)	36, 56, *
	9月28日	帰国(横浜港着)	*
大正11年(1922) 6月22日	40歳	京都帝国大学評議員	37
	8月25日	陸叙高等官四等	38, *
	9月20日	叙正六位	39, *
大正13年(1924) 1月22日	42歳	学術研究会議会員(～昭和16年4月23日)	40, 94, 95, *
	2月20日	学術研究会議生物学委員	41
	4月25日	京都帝国大学学友会遠足部長	42, *
	9月26日	陸叙高等官三等	43, *
	?月	萬国生物学協会委員	*
	9月27日	第三回汎太平洋学術会議準備委員(大正15年10・11月東京で開催)	44, *
	12月 1日	叙従五位	45, *
	12月27日	日本赤十字社正社員	46
大正14年(1925) 3月23日	43歳	教員検定委員会臨時委員(～同年8月25日)	47, 48
昭和2年(1927) 3月 6日	45歳	鳥取高等農業学校植物学講師	49
	4月11日	京都園芸倶楽部学芸部委員	50
	11月25日	昭和三年度陪審員候補者	51
	12月 2日	陸叙高等官二等	52, *
	12月28日	叙正五位	53, *
昭和3年(1928) 8月 1日	46歳	京都府史蹟勝地保存委員会委員(～24年4月4日)	54, 110, *
	11月 2日	叙勲四等瑞宝章	*
	11月16日	授昭和の大禮記念章	*
昭和4年(1929) 4月18日	47歳	インドネシア・ジャバ島視察(4月～7月)	55, *
		(第四回汎太平洋学術会議)	*
昭和5年(1930) 2月25日	48歳	教化振興会評議員	57
昭和6年(1931) 5月25日	49歳	教員検定委員会臨時委員(～7年2月6日)	60, 61
	6月21日	欧米視察 ¹⁾	58, *
	7月11日	萬国学術研究会議第5回総会出席	58,
	7月14日	萬国生物学協会第7回総会出席	58

1) 欧米視察については昭和7年と記述されている文献もあるが, 資料調査の結果昭和6年である。

年 月 日	年齢	項 目	資料番号
		帰路、植物生態系の視察目的のため、ブラジル、ウルグアイ、アルゼンチン、ボリビア、チリー、ペルー、メキシコを巡り北米合衆国経由で帰国の途につく	
昭和7年(1932)	1月12日 50歳	帰国(横浜港)翌13日京都着	*
	11月19日	九州帝国大学農学部森林生態学講義委嘱	64
昭和8年(1933)	1月10日 51歳	陸叙高等官一等	65, *
	1月19日	叙勲三等瑞宝章	*
	2月 1日	叙従四位	66, *
昭和9年(1934)	10月10日 52歳	教員検定委員会臨時委員(～10年2年26日)	71, 73
昭和10年(1934)	1月 1日 53歳	日本学術振興会学術部第七常置委員会委員委	72, *
昭和12年(1937)	10月28日 55歳	教員検定委員会臨時委員(～13年2年17日)	75, 78
昭和13年(1938)	2月11日 56歳	紀元二千六百年記念日本萬国博覧会顧問委嘱	76
	2月15日	叙正四位	77, *
	11月18日	除服出仕	79
昭和14年(1939)	1月 1日 57歳	日本学術振興会学術部第七常置委員会委員委嘱	80, *
	6月 1日	興亜民族生活科学研究所協議員・兼任所員委嘱	84, 85
	9月30日	京都帝国大学図書館商議会議員	86
昭和15年(1940)	2月16日 58歳	叙勲二等瑞宝章	*
	2月21日	京都帝国大学理学部入学学力検定試験委員	87
	8月15日	授紀元二千六百年祝典記念章	*
	8/17-9/21	満州国・内蒙古・中華民国視察	88, 89, *
	9月13日	教員検定委員会臨時委員	90
昭和16年(1941)	2月11日 59歳	皇教会參與嘱託	91
	5月10日	昭和16年度文部省科学研究費調査委員委嘱	96
	5月10日	京都園芸倶楽部評議員	97
	9月 2日	学術研究会議生物学及び農学研究連絡委員委嘱	98
	9月30日	京都帝国大学理学部長	*
	9月30日	京都帝国大学報国隊委員委嘱	101
昭和17年(1942)	1月14日 60歳	京都帝国大学同学会協議員委嘱(～同年9月26日)	102, 104
	9月26日	依願免本官	103, *
	10月	京都帝国大学同学会名誉会員	106
	11月25日	任陸軍司政長官, 叙高等官一等	107, *
	12月21日	福岡雁ノ巣飛行場発, 広東着	*
	12月22日	昭南着	*
	12月25日	第25軍軍政監部付	*
昭和18年(1943)	4月19日 61歳	昭南植物園長(昭南特別市, 現在シンガポール)	*
		馬來軍政監部(編成改正)付	*
昭和19年(1944)	1月29日 62歳	第29軍軍政監部(編成改正)付	*
	4月18日	叙従三位	*
	10月12日	叙勲一等瑞宝章	*
	12月15日	昭南博物館長	*
昭和20年(1945)	3月15日 63歳	第7方面軍軍政監部(編成改正)付	*
	9月10日	ジュロン抑留所に収監	*
昭和21年(1946)	1月26日 64歳	昭南発	*
	2月 9日	大竹港着	*
	2月13日	帰洛	*
昭和23年(1948)	8月 6日 66歳	京都大学名誉教授	108, *
昭和24年(1949)	4月 1日 67歳	立命館大学講師嘱託	109, *
昭和25年(1950)	4月 1日 68歳	大谷大学新制学部講師嘱託	111, *
	6月 1日	大阪市立大学工学部附属植物園運営委員会委員委嘱	112
	9月30日	島根県立農林専門学校臨時講師委嘱	113, *
昭和26年(1951)	4月 1日 69歳	立命館大学工学部講師嘱託	114
	4月24日	京都文理学院講師嘱託	*
昭和27年(1952)	4月29日 70歳	京都園芸倶楽部会長	*
	6月 1日	京都大学分校講師嘱託	*
昭和29年(1954)	2月 1日 72歳	弘前大学学長	*
昭和31年(1956)	5月 3日 74歳	青森県生物学会会長	*
昭和32年(1957)	12月15日 75歳	他界(弘前市若党町 学長公舎)	*
	12月15日	叙正三位	*
	12月21日	大学葬	*

表中の月日は発令月日, または出席, 発着等の月日である。

資料番号は表2の番号

*表記の項目は郡場寛先生遺稿集(1958)等の資料による。

表2・郡場寛博士辞令等資料一覧

番号	発令年月日	内 容	発令機関
1	明治42年10月5日	東京帝国大学理科大学副手嘱託	東京帝国大学
2	明治42年11月6日	特選給費学生選定	東京帝国大学
3	明治44年11月5日	特選給費学生継続	東京帝国大学
4	明治45年7月25日	手当支給額通知	東京帝国大学
5	大正元年12月7日	学位伝達通知	文部省専門学務局長
6	大正2年11月21日	東北帝国大学農科大学講師嘱託	東北帝国大学農科大学
7	大正2年11月30日	東京帝国大学理科大学副手嘱託解く	東京帝国大学
8	大正2年11月30日	手当支給額通知	東北帝国大学農科大学
9	大正2年11月30日	東北帝国大学農科大学植物学第二講座属する職務擔任	東北帝国大学
10	大正4年3月31日	手当支給通知	東北帝国大学農科大学
11	大正4年8月9日	東北帝国大学農科大学講師嘱託解く	東北帝国大学農科大学
12	大正4年8月9日	任東北帝国大学農科大学教授，叙高等官六等	内閣総理大臣
13	大正4年8月9日	東北帝国大学農科大学植物第二講座擔任	文部省
14	大正4年8月9日	給与等級通知	文部省
15	大正4年9月10日	叙正七位	宮内大臣
16	大正5年3月30日	手当支給通知	東北帝国大学
17	大正6年3月30日	手当支給通知	東北帝国大学
18	大正6年9月24日	歸省許可	東北帝国大学農科大学長
19	大正6年10月11日	除服出仕	東北帝国大学農科大学
20	大正6年12月27日	東北帝国大学農科大学植物学第二講座擔任免す	文部省
21	大正6年12月28日	京都帝国大学理科大学生物学教室開設設計顧問嘱託	京都帝国大学
22	大正7年1月31日	手当支給通知	京都帝国大学
23	大正7年2月1日	米国，英国，伊国，瑞西国留学	文部省大臣
24	大正7年11月5日	留学先追加（佛国）	文部省大臣
25	大正8年4月1日	給与等級通知	文部省
26	大正9年8月20日	京都帝国大学理学部生物学教室開設設計顧問嘱託解く	京都帝国大学
27	大正9年8月20日	任京都帝国大学教授，叙高等官五等	内閣総理大臣
28	大正9年8月20日	京都帝国大学理学部勤務	文部省
29	大正9年8月20日	京都帝国大学植物学講座擔任	文部省
30	大正9年8月20日	給与等級通知	文部省
31	大正9年9月10日	叙従六位	宮内大臣
32	大正10年1月15日	京都帝国大学農学部創設委員嘱託	京都帝国大学
33	大正10年4月13日	京都帝国大学植物学講座擔任免す，植物学第一講座擔任	文部省
34	大正10年4月15日	植物学教室物品監守者，公用図書借受者任命	京都帝国大学
35	大正10年8月2日	南洋群島ボナベ島出張	文部省
36	大正10年8月18日	大典記念京都植物園長就任	京都府
37	大正11年6月22日	京都帝国大学評議員	文部省
38	大正11年8月25日	陞叙高等官四等	内閣
39	大正11年9月20日	叙正六位	宮内大臣
40	大正13年1月22日	学術研究会議会員	内閣
41	大正13年2月20日	学術研究会議生物学委員嘱託	学術研究会議会長
42	大正13年4月25日	京都帝国大学学友会遠足部長嘱託	京都帝国大学学友会長
43	大正13年9月26日	陞叙高等官三等	内閣
44	大正13年9月27日	第三回汎太平洋学術会議準備委員	学術研究会議会長
45	大正13年12月1日	叙従五位	内宮大臣
46	大正13年12月27日	日本赤十字社正社員	日本赤十字社総裁・社長
47	大正14年3月23日	教員検定委員会臨時委員	内閣
48	大正14年8月25日	教員検定委員会臨時委員被免	内閣
49	昭和2年3月6日	鳥取高等農業学校植物学講師嘱託	鳥取高等農業学校
50	昭和2年4月11日	京都園芸倶楽部学芸部委員嘱託	京都園芸倶楽部
51	昭和2年11月25日	昭和三年度陪審員候補者選定	京都市上京区長
52	昭和2年12月2日	陞叙高等官二等	内閣総理大臣
53	昭和2年12月28日	叙正五位	宮内大臣
54	昭和3年8月1日	京都府史蹟勝地保存委員会委員嘱託	京都府知事
55	昭和4年4月18日	ジャバ島出張	文部大臣官房秘書課長
56	昭和4年10月19日	京都植物園長職務免す	京都府
57	昭和5年2月25日	教化振興会評議員	教化振興会理事長
58	昭和6年4月8日	萬国学術研究会議第五回總會，萬国生物学協会第七回總會に学術研究会議代表者として出席	学術研究会議主事
59	昭和6年5月23日	高等学校高等科教員試験検定問題打合せ，試験の出席	教員検定委員会会長
60	昭和6年5月25日	教員検定委員会臨時委員	内閣
61	昭和7年2月6日	教員検定委員会臨時委員被免	内閣

番号	発令年月日	内 容	発令機 関
62	昭和7年3月31日	理学部植物学教室物品監守者・公用図書借受者・警備委員	京都帝国大学理学部
63	昭和7年6月9日	大学院生指導	京都帝国大学
64	昭和7年11月19日	九州帝国大学農学部森林生態学講義囑託	九州帝国大学
65	昭和8年1月10日	陸軍高等官一等	内閣
66	昭和8年2月1日	叙従四位	宮内大臣
67	昭和8年5月5日	大学院生指導	京都帝国大学
68	昭和8年5月5日	大学院生指導	京都帝国大学
69	昭和8年8月13日	津軽報恩会表彰	津軽報恩会長
70	昭和9年4月18日	大学院生指導	京都帝国大学
71	昭和9年10月10日	教員検定委員会臨時委員	内閣
72	昭和10年1月1日	日本学術振興会学術部第七常置委員会委員委嘱	日本学術振興会会長
73	昭和10年2月26日	教員検定委員会臨時委員被免	内閣
74	昭和12年5月20日	大学院生指導	京都帝国大学学生課長
75	昭和12年10月26日	教員検定委員会臨時委員	内閣
76	昭和13年2月11日	紀元二千六百年記念日本萬国博覧会顧問委嘱	日本萬国博覧会会長
77	昭和13年2月15日	叙正四位	宮内大臣
78	昭和13年2月17日	教員検定委員会臨時委員被免	内閣
79	昭和13年11月18日	除服出仕	京都帝国大学
80	昭和14年1月1日	日本学術振興会学術部第七常置委員会委員委嘱	日本学術振興会会長
81	昭和14年3月31日	昭和14年度理学部植物学教室主任	京都帝国大学
82	昭和14年3月31日	昭和14年度理学部植物学教室公用図書借受者	京都帝国大学
83	昭和14年3月31日	昭和14年度理学部植物学教室所属物品監守者，第八警備部第七警備区警備委員	京都帝国大学
84	昭和14年6月1日	興亜民族生活科学研究所協議員委嘱	興亜民族生活科学研究所長
85	昭和14年6月1日	興亜民族生活科学研究所兼任所員委嘱	興亜民族生活科学研究所長
86	昭和14年9月30日	京都帝国大学図書館商議会委員	京都帝国大学
87	昭和15年2月21日	理学部入学学力検定試験委員	京都帝国大学
88	昭和15年8月13日	満州国，中華民国出張	文部省
89	昭和15年8月15日	満州国，中華民国出張	京都帝国大学総長
90	昭和15年9月13日	教員検定委員会臨時委員	内閣
91	昭和16年2月11日	皇教会參與囑託	皇教会長
92	昭和16年4月1日	昭和16年度理学部植物学教室主任	京都帝国大学
93	昭和16年4月1日	昭和16年度理学部植物学教室所属物品監守者，公用図書借受者，第八警備部第七警備区警備委員	京都帝国大学
94	昭和16年4月23日	依願学術研究会議會員被免	内閣
95	昭和16年5月7日	学術研究会議會員在職礼状	学術研究会議會長
96	昭和16年5月10日	昭和16年度文部省科学研究費調査委員委嘱	学術研究会議
97	昭和16年5月10日	京都園芸倶楽部評議員	京都園芸倶楽部
98	昭和16年9月2日	学術研究会議生物学及び農学研究連絡委員委嘱	学術研究会議
99	昭和16年9月30日	昭和16年度理学部植物学教室主任免寸	京都帝国大学
100	昭和16年9月30日	昭和16年度理学部植物学教室所属物品監守者，公用図書借受者，第八警備部第七警備区警備委員免寸	京都帝国大学
101	昭和16年9月30日	京都帝国大学報国隊委員委嘱	京都帝国大学報国隊総長
102	昭和17年1月14日	京都帝国大学同学会協議員委嘱	京都帝国大学同学会長
103	昭和17年9月26日	依願免本官	内閣総理大臣
104	昭和17年9月26日	京都帝国大学同学会協議員免寸	京都帝国大学同学会
105	昭和17年9月26日	手当支給通知	京都帝国大学
106	昭和17年10月？日	京都帝国大学同学会名誉會員	京都帝国大学同学会長
107	昭和17年11月25日	任陸軍司政長官叙高等官一等	内閣総理大臣
108	昭和23年8月6日	京都大学名誉教授	内閣総理大臣
109	昭和24年4月1日	立命館大学講師囑託	立命館
110	昭和24年4月4日	京都府史蹟勝地保存委員会委員解任（委員会解散）	京都府教育委員会教育長
111	昭和25年4月1日	大谷大学新制学部講師囑託	大谷大学学長
112	昭和25年6月1日	大阪市立大学理工学部附属植物園運営委員会委員委嘱	大阪市立大学総長
113	昭和25年9月30日	島根県立農林専門学校講師委嘱（植物特論）	島根県立農林専門学校
114	昭和26年4月1日	立命館大学理工学部講師囑託	立命館

青森県立郷土館資料登録番号 AOPM2064

生物同好会の青森市梵珠山での採集会に参加した。『参加してくれて一同感謝した。・・・食後会員一同に指導講演をしてくれた。』とそのときの様子を詳しく述べている。高校生や大学生のみならず多くの人びとに指導する教育者としての人柄が感じられる。

ふるさと青森県をこよなく愛していた郡場寛は、青森県に帰省したときには青森市酸ヶ湯温泉に滞在していた。いろんな方々と山中で会話を交わしている。昭和3年7月下旬に家族同伴で静養していた時も、青蛙（モリアオガエル）の調査をしていた和田千蔵（師範学校博物学教室主宰）を睡蓮沼で見かけると、自分からブッシュをかき分けやって来て両生類について話されたことを和田千蔵が回想している（和田，1976）。研究仲間や隣人を大切にいた郡場寛の研究者としての姿勢が伺える。

5. おわりに

世界的に著名な植物生理・生態学者である郡場寛博士が、戦時中に昭南植物園、昭南博物館（現；シンガポール）の貴重な標本や資料の分散を阻止して、保管に尽力した行動は高い評価を得ている（Corner,1946）。同博士の遺品（図書、資料等）が分散せずに青森県の博物館に永く保管されることは、同博士の意志に適うことである。今後、これらの資料をテーマごとにまとめて記録して行く予定である。

郡場寛が他界する1ヶ月前に地元新聞紙東奥日報（昭和32年11月9日）に掲載された「植物生理学の権威者、郷土が誇る弘前大学学長」で、同博士自身が誕生から弘前大学赴任後の生活までの思い出を自身の言葉で詳しく述べている（品川,1959）。その中に『このごろ、食欲は盛んでなくなってるが、心の持ちようで健康は保ちつつけることはできる。・・・百になれば健康法を書くつもりです。その前に亡くなれば遺稿になるでしょう。』と最後を閉めている。

引用文献

- 芦田譲治, 1943. 理学博士郡場寛の略歴. 植物学雑誌, 57 (674) : 165-166.
- E.J.H.Cornor, 1946. Japanese men of science in Malaya during Japanese. Nature, 158 : 63.
- 木原均, 1962. 生物学閑話第Ⅰ集. 廣川書店, 東京. 233pp.
- 木原均, 1966. 生物学閑話第Ⅱ集. 廣川書店, 東京. 293pp.
- 木原均, 1968. 生物学閑話第Ⅲ集. 廣川書店, 東京. 286pp.
- 木原均, 1970. 生物学閑話第Ⅳ集. 廣川書店, 東京. 374pp.
- Kohriba, H., 1940. 濱田稔氏, ツチアケビの菌根に関する研究. 植物分類・地理, 9 (4) : 245-247.
- 郡場寛, 1942. 藤田哲夫氏, 葉序の研究. 植物分類・地理, 11 (4) : 335-337.
- 郡場寛先生遺稿集刊行会, 1958. 郡場寛先生遺稿集. 299pp.
- 中沢潤, 1953. 青森県出身の生物学者 (2) 郡場寛先生. 進化, 5 (2) : 18-20.
- 松村慎三, 1988. 青森県の101人, 郡場寛. 北の街社, 青森市. p.203.
- 品川弥千江, 1959. 閑話有題 (青森県人物色模様), 107, 弘前大学学長郡場寛. 東奥日報. p.114.
- 尾崎村文化研究同志会, 1956. 尾崎村誌, (四) 郡場家. 115-133.
- 和田千蔵, 1976. 郡場先生を偲んで. 青森県生物学会誌, 15 (1/2) : 3.